

すみだ雨水宣言 2024

地球に何十億年と降り注ぐ雨は全ての命の源です。日本に暮らすわたしたちも、古来より雨の豊かな恵みを受けて、土地を耕し、まちを潤し、文化を育んできました。

しかし、その雨に脅かされてきたこともまた事実です。過去数十年で水災害の頻度と規模は増大し、資源の不足、人の移動、経済的損失といった影響が世界の平和にも危機をもたらしています。この先、さらに切迫する「地球の沸騰化」によって、人類は経験したことのない高温、豪雨、干ばつに直面すると言われていています。

変化したのは、わたしたちの生活も同様です。現在日本では人口のおよそ9割がインフラの整った都市部に住み、世界でも2050年には都市人口がおよそ7割に達すると言われていています。都市化はわたしたちを自然の脅威から守り、暮らしを便利で豊かにした一方、かつては身近にあった自然とつき合う知恵や技術も遠いものになってしまいました。水も例外ではなく、わたしたちはいつしか、雨を源とする水のめぐりがあってこそ社会が成り立っていることを忘れていきます。

1994年、ここすみだで開催された国際会議は、日本で初めて雨水をテーマとし、世界で初めて「都市と雨水」を考えました。30年を経た今日、わたしたち一人ひとりが、雨に親しみ、雨を活かし、謙虚に畏れ、その恵みのバトンを、未来を生きる人たちへと渡すために、雨水先進都市すみだに集うわたしたちは宣言します。

1. 雨をまちにとどめよう

雨を排除すると、まちは熱く乾き、人も生きものもやがてはくらしなくなります。降ってくる雨を、家や庭で、建物や敷地で、道路や公園で、できるだけとどめてゆっくり流します。土や植物、地形といった水をとどめる自然の力に学び、取り入れます。そしてその効果を測り、科学的根拠を元に未来のまちづくりのルールを作ります。雨をとどめる力は、まちにうるおいと洪水に耐える強さをもたらします。

2. 「水道」を補う「天水源」を増やそう

日本中に張り巡らされた上下水道は、わたしたちの暮らしを便利で豊かにしました。一方、降った雨をその場で処理し、活用する技術も大きく進展しました。上下水道の老朽化や災害による断水が現実となり、年初に発災した能登半島地震では、断水が最大11万戸に達し、7か月後の今も日常生活用水に不自由する地域が残っています。そんな中、身近に雨を集める「天水源」を増やすことで、地域に応じた水源の選択肢を増やし、水源の自立をめざします。

3. 雨を活かし、選そう

地球の空はつながっています。きれいな広い空、豊かでやわらかな大地が、きれいな雨をもたらします。雨は、「天然の蒸留

水」とも言われ、本来その水質は飲用を含めて幅広い用途に適しています。わたしたちは雨と水循環を考える国内外の人々と広くつながり、すべての生きもの、そして地球の健康を守るために、大気と土壤の汚染を防止し、きれいな雨を水循環の輪に返していきます。

4. 雨のあるくらしを楽しもう

雨は単なる気象現象を超え、くらしを彩ります。わたしたちは、雨だれの音、雨に洗われた緑、夕立のあとの清々しい空気といった雨の情景を五感で受け止め、雨と共にある生活を実践し、その楽しさを分かち合います。また、くらしの中の雨の流れや蓄えた雨の量と質を見える化し、雨水活用があたり前になる社会をめざし、雨に親しむくらしを楽しみます。

5. みんなで未来へつなごう

生命を育み、つなぐ源は「雨」です。わたしたちは、くらしの中で雨をめぐらせ、そのゆくえを見直すことで、雨を大切な資源として活かし、雨と共に生きるくらしを次世代につなぎます。未来を生きる人に豊かで健やかな水循環を引き継ぐために、今日ここに集う全ての参加者は、知恵を集め、行動し続けます。